

6 本時の展開

本時の目標	銅と亜鉛と電解質水溶液を用いて電流が取り出せるしくみをイオンのモデルを使って説明できる。			
観点別評価規準	銅と亜鉛と電解質水溶液を用いて電流が取り出せるしくみをイオンのモデルを使って説明することができる。(科学的な思考・表現)			
準備物	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート (個人用 40枚、グループ用 9枚) ・ホワイトボード ・イオンモデル 			
学習の展開				
過程	学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
導入 (5分)	1. 前時の実験結果をデジタル教科書の映像を見ながら復習する。	○銅板から気体である水素が発生している事、オルゴールの電流の流れる向きから亜鉛版が一極、銅板が+極であることを確認する。		
展開 (27分)	2. 課題を確認する。○課題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【学習課題】 銅と亜鉛と電解質水溶液を用いて電流が流れるしくみをイオンのモデルを使って説明しよう。 </div>			
	○個人思考 (7分) ○グループ (15分) ・司会者、発表の順番を決めた後、話し合いを始める。 ・個人の意見は全員が班で必ず発表する。	○プリントの流れを参考にしながら学習活動を説明する。 (生徒発表例①) ・電流の流れる向きから電子の流れる向きは亜鉛から銅である。 ・亜鉛が亜鉛イオンになり水溶液中に溶けている。亜鉛の電子が銅板に移動している。 ・水素イオンが電子を受け取り水素原子になって気体が発生している。 ○ノート、ファイル何を参考にしてもかまわないことを指示する。(教科書は見ない) ○話し合い後、班の誰かが他の班に発表しに行くため、班の意見は全員が発表できるようにしておく必要があることを伝える。 ○自分になかった考えを色ペンでプリントに書きこむ。	思考・表現 銅と亜鉛と電解質水溶液を用いて電流が取り出せるしくみをイオンのモデルを使って説明することができる。	・意見交換 ・ワークシート

<p>展開 (27分)</p>	<p>3. 班の代表者1名が、隣の班に自分の班の考えを伝える。 (5分)</p>	<p>○教師が話し合いに参加し、思考の助けになるような助言を行う。 ○原子・イオンのモデルを各班に配り、モデルで考えるよう指示する。 ○図などを使って聞き手に分かりやすく説明するよう指導する。 ○個人の考えをもとに、グループで話し合った結果をまとめ、他の班に全員が説明できるようにする。 ○全員に分かりやすい発表になるように図を使って説明させる。</p>		
<p>まとめ (18分)</p>	<p>4. 銅と亜鉛と電解質水溶液を用いて電流が流れるしくみをイオンのモデルを使って全体に発表する。 (10分)</p> <p>5. 銅と亜鉛と電解質水溶液を用いて電流が流れるしくみについてまとめる。(5分)</p> <p>6. 本時の評価を聞く。(3分)</p>	<p>○全員に分かりやすい発表になるように図を使って説明させる。 ○化学反応式を使って説明できる生徒がいる場合、化学反応式と模式的に表した図を使って説明する。</p>		